2023 パリ世界パラ選手権大会　総評

日本パラ陸上競技連盟
強化委員長　宍戸英樹

今大会においては、金メダル４、銀メダル３、銅メダル４計 11 個となり、国に与えられる出場枠の獲得数は 13 枠、ユニバーサルリレーは出場権の獲得となりました。

これは、前回のドバイ大会と比較してもメダル数 11 個・獲得枠 13 枠だったので、上回っていると言えると思います。内訳としてもドバイ大会のメダルは 11 個中 8 個が T52 で獲得したメダルでしたが、今大会は T52 のメダルは 3 個で、中長距離で２、跳躍で３、短距離１、投擲１、リレー１となっています。獲得した枠についても車いす２、短距離２、中長距離２、跳躍５、投擲２リレー１となっており、各パートで幅広い活躍がみられました。

今回の特徴としては、東京パラリンピック前後から始めた選手や 30 歳以下の若い選手の活躍が目立ちました。

400m 金メダル･走幅跳銀メダルの T13 福永凌太（中京大クラブ）と、T11 唐澤剣也（SUBARU）の 5000m 金メダル・1500m 銀メダルを筆頭に、女子投擲としては F46 齋藤由希子（SMBC 日興証券）がアテネ以来となる投擲種目でのメダルの獲得を果たしました。T36 松本武尊（AC･KITA）が 400ｍで 4 位・ユニバーサルリレーで 1 位の活躍をみせ、惜しくもメダルには届きませんでしたが、跳躍の T12 石山大輝（順天堂大学）・T20 酒井園美（埼玉 ISF ネット）・T63 兎澤朋美（富士通）が共に走幅跳で出場枠を獲得し、投擲では F46 新保大和の円盤投（アシックス）が出場枠を獲得しました。

また、出場枠獲得まであとわずかだった 5 位の選手としては、T13 佐々木真菜（東邦銀行）・T47 辻沙絵（日本体育大学）・T38 高松佑圭（ローソン）の 400ｍ、T 34 小野寺萌恵（あすなろ屋羽場店）の 100m、T 46 山﨑晃裕（順天堂大学）のやり投げがおり、今後の活躍が期待されます。

ベテラン勢は、T52 佐藤友祈（モリサワ）が 1500ｍでは圧倒的な強さを見せ金メダル・400m においても銀メダルを獲得し、同じく 400m で T52 伊藤竜也（新日本工業）が 3 位となり車いすパートでは合計 3 個のメダルを獲得し、惜しくも出場枠の獲得には至らなかったものの T52 上与那原寛和（SMBC 日興証券）も 5 位と健闘しています。

跳躍では、前回優勝者の中西麻耶（阪急交通社）と澤田優蘭（エントリー）が共に 3 位となり大舞台での強さを発揮しました。

T11 和田伸也（長瀬産業）はパリに来てから乾燥と埃のせいか喉の調子が悪く実力を発揮できない状況でしたが、5000m において出場枠を獲得しました。

ユニバーサルリレー予選では、澤田優蘭・三本木優也（京都教育大学）・高松佑圭・生馬知季（WORLD－AC）のメンバーで予選通過を果たし、この時点でパリパラリンピックの出場権を獲得しました。

決勝では、澤田優蘭・辻沙絵・松本武尊・生馬知季のメンバーで金メダルを獲得しました。

これは、合計タイムで劣っている部分をタッチワークで埋めるための分析と検証を繰り返し、選手・スタッフが一丸となってそれを生かしたトレーニングを積み重ね、確実に次へ繋げるタッチワークが今回のメダルに繋がったと確信しております。

今大会は、ベテランと若手がバランスよく活躍した大会であると感じています。

また、若手の選手においては、パリパラリンピックのみならず、次のロサンゼルスへも十分期待の持てる大会となったと思いました。

課題としては、若い選手の経験の不足、新型コロナウィルスの影響により大きな大会が中止や延期となったため、海外大会の経験値が不足し、過度に緊張感を持ったり、時差の調整がうまくいかなかったりする選手もみられたので、今大会の反省を生かし、試合経験の積み重ねと、日ごろからのコンディショニングの管理についての教育等の充実を図っていかなければならないと感じております。